

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

### 主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんとしてあることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的な活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません。

### 到達目標

- 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
  - 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
  - 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる
- 中国語検定試験のレベルを目安とすると、準4級～4級レベルの中国語に相当します。検定試験準4級から4級にチャレンジできる力をつけます。

### 提出課題

とくに課題は予定していません。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

出席確認を兼ねて小テストを行うことがあります。小テストは返却しませんが、次回の授業で講評します。中間試験は返却した上で、講評します。

### 評価の基準

次の点を総合的に判断します  
 平常点（出席状況、受講態度） 20%  
 中間試験と期末試験 80%

### 履修にあたっての注意・助言他

- 必ず教科書を購入して授業にのぞんでください。受講態度として評価の対象になります。
- 新型コロナウイルス感染症の感染者や、濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

教科書	.はじめよう楽々中国語 .	白水社	小林和代・韓軍	2200	9784560069387
-----	---------------	-----	---------	------	---------------

### 参考図書


### その他

必要に応じて配布します。

### 授業計画

- 授業ガイダンス、第1課：発音練習 声調・母音
- 第2課：子音・複合母音・鼻母音
- 第3課：何月何日？/何時？
- 第4課：お名前は？/どちらの大学？
- 第5課：だれ？なに？/これは～です
- 第6課：いる/ある
- 中国テスト
- 第7課：どこにいる？/AそれともB？
- 第8課：どれくらいかか？/～するのが好きです
- 第9課：いくら？/Aはより～です
- 第10課：～したい/どこで？
- 第11課：～できる？/～していい？
- 第12課：～している/～したことがある
- 調整日
- 調整日

授業の進度は受講生の習熟度に応じて調整します

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】  
 新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成させてください。次の授業で学ぶところに目を通し、分かるところと分からないところを、明確にしておいてください。テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください。可能であれば、講義を音読してみる。（以上、2時間程度）
- 【復習】  
 授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返し」を行ってください。ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります。講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えます。テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読みます（シャドーイング）。（以上、2時間程度）

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

### 備考
